

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年7月3日(金)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年7月3日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【5号機 原子炉建屋給気設備(B)吸込みダンパ動作不良について】 5号機 原子炉建屋給気設備(B)のフィルター交換後の運転において、当該設備の吸込みダンパ動作不良を確認。吸込みダンパの開度を45%に設定したが、閉閉操作をしていないにもかかわらず開度が35%になっていた。また、開度を45%に戻そうと操作したところ、逆に閉方向に動いた。 給気設備を(B)から(A)へ運転切替えを行い、原子炉建差圧・給気風量に異常がないことを確認。 今後、原因調査および対策を検討。</p>	G III	6月27日
2	<p>【2号機 原子炉格納容器ガス管理設備希ガス放射線モニタ(A)の伝送不良について】 2号機 原子炉格納容器ガス管理設備希ガス放射線モニタ(A)の電源交換作業後において電源を復旧したところ、免震重要棟監視パソコンに警報「2号PCV希ガス放射線モニタ(A)通信異常」が発生し、データ伝送不良を確認した。調査の結果、データの内容はデータ伝送パソコンに蓄積されており、データ伝送パソコンを再起動したところデータ伝送が正常に行われたことから、一時的な通信異常の発生と推定。 なお、希ガス放射線モニタは二重化されており、いずれの希ガスの測定も正常に行われていることが確認され、また、ウェブカメラにて指示監視が可能であったことから影響はない。</p>	G III	6月29日